

平成 18 年度第 1 回次世代育成協議会第一部会（子ども育成）概要

平成 18 年 11 月 8 日(水)午後 2 時より
区役所本庁舎 3 階 301 会議室

出席者 坂内夏子、鈴木邦子、増田玲子、武田厚子、原克弘、立花加代子、坂本悠紀子、石原慎一、倉島忠義、菊池義和、新宿警察署長代理楡原英二、新宿少年センター所長代理 菅井和男

1 開会 福祉部長挨拶

2 事務局
資料確認説明 子ども家庭課長

3 議題

- (1)「子どもの自立を視野に入れた」子育て支援・教育の取組みについて
実践例の報告に基づいた協議
ア 委員からの報告
イ 課題と方策
ウ まとめ

(2)青少年非行の現状 新宿少年センター

4 議事

部会長

今年度は、「若者の自立」について検討することになっている。本日は、実践例を報告していただき、いかに自立につなげていくか、協議していただきたい。

委員

更生保護女性会は、子育て支援と犯罪予防という視点で活動を行っている。子どもだけでなくそこに関わる家族を対象として行事を行っている。昨年は約 600 人、今年も多くの方に参加いただいてハロウィン・キッズコンサートを開催した。小さい子どもが対象だが、区立中学生にボランティアとして、子どもの世話をしてもらった。中学生から大学生までが手伝ってくれた。大人の会員の寄付で運営している。参加したボランティアにアンケートをとったところ、将来の仕事の参考となったという意見があった。

犯罪予防、薬物乱用についての講演も行っているが、出前活動として学校に行き薬物乱用の映画や、薬剤師とともに薬物乱用者の後の生活を知らせたりして子どもたちに啓発を行っている。東京都から薬物乱用指導員の資格も得た。

委員

自立するにあたっては、それぞれ違いがあるのではないか。昔は集団就職等で地方から来る子もいたが、最近は、地域で育った子どもがほとんど。他所から来てという子はいない。

角筈は小・中 1 校ずつなので、学校とのコミュニケーションはとれている。他所の子もうちの子も一緒と考えているが「入学・卒業、良かったね」という声かけぐらいである。

子育ては、お母さん任せ。自分も子育てのときは、学校にも行かなかった。育成会活動を行って子どもと接するようになったが、おじいちゃん・おばあちゃんの目で見えてしまい甘やかしてしまう。自立は本人次第。30、40 でも親から離れられない子もいる。

委員

区民の立場として参加している。我子が保育園にお世話になっている、そこで活動している具体例を紹介させていただいた。子どもの自立を視野に入れたとき何が役立っているか考えると、幼少期からの当番制で責任感を育むことができる。また、クッキングは自分で作ることを学び、お店屋さんごっこは自ら決めて責任をもって自分達で決めたことを行うことができる。体験として小さい頃から学んでいくことが大切だ。

小学生から縦割り教育を行っているが、保育園からも縦割りをやっていることが大切である。

お泊り保育は、独立心、自信をつけるのに役立っている。グループ・リーダー等の決定は、民主的、自主活動の第一歩であり、朝から晩までの集団生活が、生活の基礎を身につけるとともに、集団内の個を見つめ直す機会として良い機会である。

小学生以上の子どもたちには、役割・責任を学ぶ機会として委員会活動がある、クラブ活動は自分達で新たなクラブの創設も可能とし、自主性を尊重する機会とする。自主研究（社会、理科等）は自ら学び考え、インターンシップは将来を考える良い機会になる。

課題は、自分たちが何をすべきかである。先生・親として決定し与える教育よりも、すぐ答えを言うのではなく、自分で考えさせていくことが必要。ニート、犯罪に走る子は、何か集中できないことがあると聞いている、個性や得意な事を伸ばしてあげること、社会としても認めてあげることが大切。日々の親や教師とのコミュニケーションが大切である。

精神面のケアがこれからすごく重要だと思う。コミュニケーションがキーワードであり、これをしっかりして、そしていろいろな機会を与えてあげることが必要である。

委員

育成会として、PTA等と共催して活動している。

区レクの替わりに、スポーツ大会、お巡りさんとのマラソン大会を行っている。このような事業を通して思うことは、子どもの居場所づくりをどのように作っていくか、合理的にやっていくかということだ。

事業が重複して、子どもを取り合うことがないようにしたい。児童館、出張所、NPO、育成会 etc.子どもは、いろいろな行事に興味を持っている、もう少し、大きく、合理的に行っていく必要がある。それぞれが改革していくには、すごいパワーが必要となる。

組織を逸脱した活動をせざるをえない。育成会は、地域という視点で捉えている。参加していくと、育成会が重要なことがわかっていく。もう一度存在意義を考えていく必要がある。

いじめなど、昨今の問題になっているがマスコミが扇動する世論というものに左右される子どものイメージというものが専攻してしまう危険性を感じる。本質的な子どもに関わるところにいる人たちが、子どもたちとどう向き合うかが求められている。自分たちがどう携わるかが大切である。

第二部会でも課題になっているが、父親の参加で、企業が働き方の見直しを進めて休めても、父親が家で寝ていては意味がない。どう向き合うか、自覚はあるが難しいことである。

答えは、子どもと時間を作りつきあうことだが、大きな問題である。日頃の育成活動で感じたことである。

委員

PTAなので、子どもたちの親の立場で、本当に他人事ではなく活動している。ここ数年、安心・安全ということで取り組んできた。これから自立支援ということで夢事業に取り組んでいる。子どもたちは個性があるし、いろいろな子どもがいる。

夢や、やる気を出させるためにどうしたら良いか、PTAでは、体験を通じ、感じることを大切にしていきたい。19年度にアクション体験教室、プロバスケ、プロ野球をやることが決まっている。

アクション体験教室は、スポーツ活動の体験をとおして、その中から心の豊かさをはぐくみ、思いやり、行動力、前向きに生きていく力を養っていくことを目的としている。体験・体感をパワーにしていく事業である。

今まで地域教育推進事業で行っていたが、今年で予算がなくなるので、今後の居場所事業として、幼・中PTAと共催して、継続・安定的に行って行きたい。

事務局

本日会議のため出席できない旨の連絡があり。(事務局から代理で報告)

新宿区の中学校では、各学校で就業推進事業ということで職場体験をしている。内容については、各学校に任されている。西戸山中学校では3日間実施した。複数日の体験というのが非常に良かったということで職場の雰囲気慣れたり、あいさつや返事、大人との会話がスムーズにできるようになったなどの成果があった。職業観や労働間を培うことができ当初の目標よりも高い達成感を根づかせることができた。事業所の方にもアンケートに協力してもらい生徒へのアドバイスが寄せられた。

部会長

今回は6つの事例の報告をいただいた。横のつながり、連携を持ちつつ子どもの自主性、自立につなげ、子ども自身の参画等を促すための課題について、議論いただきたい。

委員

更生保護女性会では、テリトリーが、全区である。みんなが集まればどんな良い環境ができるかと思っている。子どもが楽しかった、役に立ったという会を残してほしい。子どもに関わる人が一緒にやっていくことである。

部会長

実際にやっている人ならでは意見が出てきた。日々の活動をどうやっていくか持ち帰って改善していくことは何かを考え協議してもらいたい。

次に青少年非行について新宿少年センターから「青少年非行の現状」についてお話をいただく。

新宿少年センター

新宿区の状況であるが、4警察署で昨年に比べて検挙している件数が減っている。私たちは、歌舞伎町を中心に少年補導を実施しているが、他の渋谷・池袋等よりも多い。保護した子は全て少女である。

昨日の子は、母親と一緒に山口から家出してきた。母親は祖母からしっかり子どもを見なさいと言われ家を出てきた。6ヶ月前から出てきていた。歌舞伎町に来る女の子は家出、援助交際、ホストクラブが3要素となっている。

学校には行ってない。仕事もせず、友だちから言われて歌舞伎町に来ている。

寝泊りはマンガ喫茶、インターネットカフェ、マクドナルドで、又は、ホストの家に泊まっている。

資金は援助交際で手っ取り早く稼いでいる。

稼いだ金は、ホストクラブ、歌舞伎町には140店舗あるに行っている。家出、援助、ホストが決まりである。

子どもたちに聞くとやりたい事がないという。また、何もしたくないと言う。幼、小

の低年齢のまま大人になってしまったのかと思えてしまう。

何をすれば子どものためにとられるが、いつも普通に子どもに接してくれと言っている。一緒に食事をして、話をして、聞いていくことである。

片親がほとんど。片親だと生活するので精一杯である。母親は、パチスロをし、姉に下の子を見させ、帰れば子どもを殴る、蹴る、そしてまたパチスロに行く。

保護したので親を呼び出すと迎えには来るが、「捜索願い」は出していない。携帯で連絡がとれているので、無事と思っているという。

子どもに関心のない親もいる。一緒に食事して話すことから始めることが大切である。

児童虐待も、しつくと紙一重である。近所から子どもの音や、何かで110番通報されるケースが多い。子どもが死なないですむように110番通報してもらいたい。

委員

親の責任の重さを痛感した。PTAでも取り組んで行きたい。

委員

大人の自立が必要。子どもの自立より親の自立からと思った。

コミュニケーションの量と質からやっていく必要がある。今日の話を実感した。

委員

親と先生との会話が出来なくなっている。

先生も忙しそうで、話しにも行けない。学校とPTAが心を打ちあけて話が出来てない。いじめの問題も、学校のシステムもどこか少しゆがんでいるのではないかな。

委員

先日、事件があり子どもを自宅に送らなければならないことがあった。先生は子ども送ろうとしても地域がわからない。そういうとき、町会等の世話を受けた方が良いのではないかな。

委員

そういう時は、取りあえず連絡網を使ってもらいたい。情報が後手になるのが怖い。

事務局

本日は、学校関係者はたまたま水曜で校内の会議があつて欠席のため、私どもから教育委員会に伝えていきたい。

PTA、学校はつながっていかねばならないので、きちんと伝えていきたい。

委員

中野の事件があつた日、教育委員会から落合地区の小中学校全部には連絡が入つたと聞いている。私立幼稚園に危機管理からFAXが入つたのはタイム差が3時間あつた。私立幼稚園にも早く回してほしかった。何かあつてからでは遅い。

委員

今は個人情報特定されないようになっているが、緊急性の高い問題は、別ではないかな。プライバシーの問題もあり、先生のTEL、住所も知らない。年賀状もやれない。ネットがあつても、自分の手で書いた手紙も作れない。

クラス名簿も作れない状況、こういう状況では、本当の意味での子どもの教育というのは如何なものかと痛切に感じる。

委員

コミュニケーションの遮断になっている。

委員

今の子どもは寂しそうでもある。夫婦で手をつないでも、子どもはひとりで歩いている。これではコミュニケーションはとれない。

私は、子どもと10分間話をしようと言っている。それでも一日の話が出来て良い。

部会長

今日話をここだけでなく、地域に持ち帰って繋げて行って欲しい。ありがとうございました。

午後4時終了